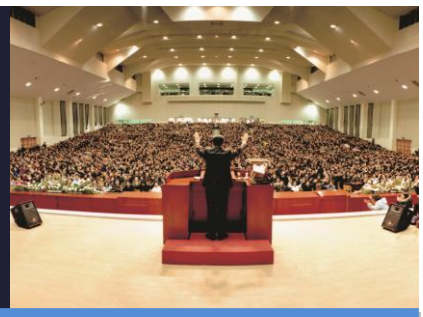
第 2019-17 号

恵みと真理のニュース



2019 年 04 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

天国に上ってもっと良い曲調と美しい声で主の前で賛美するまで、主を愛しながらもっと熱心に主を仕えます

ハレルヤ！主、神様の偉大な名を賛美捧げます。私は幼児期の幼いごろから親が離婚して親戚のおばさんの家で育ちました。早く再婚した母とはたまに会いましたが、一回、二回母に出会って母と呼ぶのが慣れなかったです。それで、父親がもっと恋しがりました。ところが、小学校６年生になって夢見た父に出会ったが、おかしいのにわたしの心にはどんな感情もなかったです。
その後、父も再婚をしてわたしに新しい妹が出来ました。思春期だった私は中学校の二年生の時私は家から少し離れたところで一人暮らしを始めました。一人でいる時間が多くて自然に勉強をたくさんして運動も熱心にしました。学生の中で本を一番多く読んだほど学校の図書館でありながら本を読むのがとても好きでした。本を読みながらうっかり眠ってしまっておきて見たら１２時が超えたほどの図書館の全ての電灯が全部消えていた時が何度もいました。出入門が閉まってしまい一人で窓を開いて脱出した事も生々しく思い出します。
ある日、道を通り過ぎる時におばさんたちが蝋燭を渡しながら明日の夜明けに学校で集会をするから必ず来るように勧めました。卵も渡すと言ったので何の集会か分からなくて好奇心と卵を食べたくて起きてすぐ学校に行きました。多くの方々が運動場に集まって蝋燭を開いて大きい声で歌いながら祈っていました。教会の信徒達が集まってイースター早天礼拝を捧げていたのです。私は体が固くなるくらい初めて見る光景で大きく驚きました。しかし、牧師の説教を聴きながらもしかしてこれから教会に通うことになる予感がしました。
学業を終えて大企業に就職して寮で生活をしました。父親とは１年に一回二回くらい会うくらい父との往来がなかったです。父はその間、商売がよくできて財産を集めて豊かに暮らしていました。ところが私が結婚してまもなく再婚した方と再び離婚をしました。持った財産の大部を慰謝料で払って一人でさびしく過ごして体まで病弱になってしまいました。良く病院に行く父親をしかたなく家で仕えました。
父は下肢障害が出来てアルツハイマーという病気になって家の中でも急に怒らせたり 大声を出してどなりつけました。妻がそんな父親の面倒を見ながらとても苦労をしました。当時、父がどれほど妻を苦しめたのか、わたしの息子達はその時のことを忘れることができず時間がたくさんすぎた今も療養院にいるおじいさんに会いに行かないです。私もそんな父が嫌ですが、歳をとって弱くなった姿を見ると私が助けないとどう生きるのかかわいそうで耐えて過ごしました。
そうした私がイエス様を受け入れて神様に礼拝を捧げる生活をしながら変化されました。はじめは父を仕え教会に行って共に礼拝を捧げる時でした。他の礼拝とは違って居眠りしなくて真に当会長の牧師の説教の御言葉を聴きながら心は感動になり大きい恵を受けました。その後、新しく来られた方を祝福する時間に父と共に起き上がって胸に手を当てて牧師の御言葉を着いて信仰紅白をしました。ところが急に全ての体で力がなくなり、わたしの心が熱くなりその瞬間、限りない涙を流しました。私は今まで流した涙の２倍くらいを流したようです。
その時間の聖霊充満な恵を受けて父に対する憎みと恨みの心がなくなり、その代わりに哀れむ心がわたしの心にありました。また、主が今まで私の全ての罪を赦してくださったのを強く感じました。今まで心配、落胆、悩んだ全てのことがよけいな心配だったと思って、心がすっきりして明るくなりました。今まで妻をついて教会に出席して礼拝の時間に居眠りをした私が真で神様の前で悔い改めて救われた聖徒らしく生きると固く決心しました。
妻の勧めを受けて教会で奉仕すると決心してその年２０１３年の春に妻の手を握って聖歌隊に行きました。聖歌隊で賛美をする時間に見た慣れていた聖歌隊員達が明るい顔で迎えてくれました。かなり年をとった方々まで明るく笑って初めて見る私をまるで長く過ごした家族のように接してくださる時、わたしの心があたたくなりまるで他の世に来たようでした。
そのように聖歌隊で奉仕を始めて曲の音さえも知らなかったので誰よりも熱心に賛美を習いながら心を尽くして賛美をしました。そして、何週間が過ぎて、指揮者が急に私にソロパートで２節を一人で歌いなさいとしました。従順する心で賛美を歌いましたが、その日、私がどのように歌ったのか、よく歌ったのか、間違いが多かったのか記憶もないです。
歌を歌ってから指揮者から褒められましたが、その時、以後、再びソロはさせなかったのを見てたぶん足りなかったと思います。それで、私はその時の後からその賛美の歌詞である５１９番を繰り返して歌っています。あなたは覚えている救いを受けた強盗を悔い改めた時、天国に行くのを許可された。私達の心は主のもので主の形で作ってください。主の導きに生きる間、いつも愛と忠誠して捧げます。アーメン！
この賛美を捧げるたびに強い救いの確信になって神様に限りなく感謝を捧げます。今もわたしの心は主のもので、日々主の姿に似ていくようにしてください。ただ、主だけを従うようにしてください。毎日休まずに神様に祈ります。そして今日も生きておられ働かれる主を人生の中で多様な姿と模様で体験しています。ハレルヤ
父に良く会いに行くため教会の近くにある療養院に入院しました。私が会いに行くたびに人が懐かしいのか“神様が送ってくださったのだ！。と嬉しい顔で向ってくださいます。その話を聞くとこれが神様がわたしになさった奇跡だと思います。長い間恨みながら憎んだ父を通して私を主の前に来るようにしてくださり、聖霊で油を注いでくださって霊的な成長を成し遂げてくださいました。教会で仕え奉仕する生活を通して私に対する神様の信仰が大きくなり深くなるようにしてくださり、わたしの全てが神様の恵みです。神様の恵みによるのであることを悟ってくださいます。希望で充満して明るい心を持って日々を生きるようにしてくださったこと感謝します。私が礼拝を捧げることに賛美の恵を受けてはじめの教会での奉仕決心して探したその聖歌隊で今は私は聖歌隊の隊長で重い責任をあずかって献身奉仕しています。
　これだけでなく、私が危機に落ちいてパウロとシラーのように祈って賛美したら神様は扉を開いてくださり、私を危機から救い出してくださった体験をしたことが多いです。そのようにいつも私と共におられ助けてくださる神様を賛美します。私を助けてくださり、時によって勇気と知恵と能力と愛と夢を与えてくださる神様の大きい恵と愛に感謝します。これからもっと熱心に人々を伝道して主のことに力を尽くす生活をします。主に全ての栄光を捧げます。

［信仰コラム］　聖書に啓示されたキリスト人の実状

”...貧しいようであるが，多くの人を富ませ，何も持たないようであるが，すべての物を持っている。”

本分はキリスト人に対するこの世の認識と判断に関連してその実状を明らかにしています。この世という言葉が聖書には様々な意味で使われています。空間的、時間的に限定されるある世代、サタンが支配する領域等を意味します。あるいはこの世の全ての人特に、イエスキリストを信じない人々を意味します。
第一は、誉められて誹られて始まるとしました。イエス様を信じる人はこの世が侮辱しても恥ずかしがらず、却って喜びます。その理由はこの世が与えられず奪うことができない光栄が約束されているからです。この世がイエス様を信じる人を侮辱しても実状は尊貴な人です。光栄の魂すなわち神様の霊が彼の上に留まれておられるからです。
第二は、悪評を受けて好評を博して始まるとしました。この世はイエス様を信じる人を悪評する傾向があります。しかしこの世の人が私達の名をいかに誹謗して悪く言ってもそのため私達の名が不潔になりません。どんな悪い名で読んでも実状は美しい名を持った者達です。聖書に義人、聖徒、キリスト人、神様の民、神様の子だと明示されました。
第三は、人を惑わしているようだが真実だとしました。不信者達は福音真理を荒唐無稽なことに扱います。実は、イエスキリストの乙女誕生と贖いの死と復活、昇天再臨を信じる信仰は神様の恵みを被らなくては持つことができません。神様がその選ばれた者達に与えてくださる賜物であります。救いと来世に関するこの世の哲学と科学、宗教の教えは全て騙す言葉に過ぎません。聖書に啓示された御言葉だけが真実であります。
第四、人に知られていないようであるが、認められているとしました。真実なキリスト人は神様が喜ばない名声を求めません。キリスト人はこの世でもし無名に扱われても神様の国に立つ有名な人です。生命の本に名前が記録された人が誠に有名な人です。
第御は、死にかかっているようであるが，見よ，生きておりとしました。キリスト人が経験する死とは肉親が崩れる瞬間魂は天使に支えられて天国に入るので主観的な経験では死がありません。そして肉親は復活の日に変化された体で生き返るようになります。
第六は、懲らしめられているようであるが，殺されずとしました。使徒パウロはこのような経験を数多くしました。様々な問題と困難を受ける時には懲らしめられるように見えるが、却って主の能力を深く体験します。信仰がより固くなり純粋になります。
第七は、悲しんでいるようであるが，常に喜んでおるとしました。キリスト人は福音を信じなくて滅びの道に行く家族と隣人を考えながら悲しみます。信仰が弱い者を見る時、もし試しに陥らないか、信仰を捨てるのではないか悲しみます。キリスト人はこのように不信者にない悲しみがあるが、その反面に不信者が持つことができない喜びがあります。
第八は、貧しいようであるが，多くの人を富ませるとしました。他の人の生活を富ませることにおいて福音を伝えて信じさせることより卓越なことはありません。キリスト人は神様が与えてくださる神霊な恵みを受けて他の人に有益を及ぼします。彼が持った財物や学識の多少に関係なく常に他の人を富ませながら生きていきます。
第九は、何も持たないようであるが，すべての物を持っているとしました。誠なキリスト人はこの世の名誉、地位、権勢、財物を所有しても何も持たない者のように主に頼って絶えず神様を仰ぎます。キリスト人は神様が時に適って助ける恵みを施されて日用のことをくださるから全ての物を持った者に違いません。この世がいかに認識して扱ってもその身分はとても尊貴であり、その所有は極めて豊かです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

ダビデの神本主義（その2）

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イスラエルの歴史の中で、アブラハムとモーセとダビデは非常に素晴らしく重要な偉い人です。これらはイスラエルの歴史の中心軸であり、また、神の救い主において特別な役割を与えられた人物です。神はダビデを王に立てて言われた**『それから 神は サウロ を 退け， ダビデを 立てて 王とされたが， 彼についてあかしをして， 『わたしは エッサイ の 子 ダビデを 見つけた． 彼はわたしの 心にかなった人で， わたしの 思うところを， ことごとく実行してくれるであろう 』と 言われた」**としました。ダビデの生涯を調べてみると、彼もミスや誤りが多くの人でした。彼が犯したことの中で最も大きな犯罪は計画的にバテシバの夫であるウリヤ将軍を激しい戦いの先頭に立ったので戦死させてバテシバを妻にした行為です。それでも神はダビデをユダの歴代の王の中で最も優れた模範と認められました。ダビデはそのすべての欠点を小さなものと思うようにするほど、多くの利点がありました。その利点の核心が神本主義です。先週の日曜日には、少年ダビデがゴリアテを争う打ってイスラエルが勝利を得るようにした事件を中心に、ダビデの神本主義について調べてみました。今日は、その後に、ダビデが見せた神本主義について見てみましょう。

第一に、神本主義者は神と神の言葉を価値判断の基準にします。

ダビデの生涯において多き転換点を迎えることになる重大事件が発生しました。それはサウル王がペリシテとの戦いで戦死したことです。この事件は、ダビデがペリシテのガードに亡命してチクラグに居住しているときに発生しました。ダビデがイスラエルとペリシテのギルボア戦闘の状況について気になっているときに、イスラエルの兵士一りが、ダビデのところに来って、イスラエルの敗戦のニュースを知っていました。その兵士はサウル王が死んだ過程を詳しく説明し、その証拠を提示しました。

「わたしは， はからずも， ギルボア 山にいましたが， サウル はそのやりによりかかっており， 戰車と 騎兵とが 彼に 攻め 寄ろうとしていました． その 時， 彼はうしろを振り 向いてわたしを 見， わたしを 呼びましたので，『ここにいます 』とわたしは 答えました． 彼は『おまえはだれか 』と 言いましたので， 『アマレク びとです 』と 答えました． 彼はまたわたしに 言いました『そばにきて 殺してください． わたしは 苦しみに 耐えない． まだ 命があるからです 』そこで， わたしはそのそばにいって 彼を 殺しました． 彼がすでに 倒れて， 生きることのできないのを 知ったからです． そしてわたしは 彼の 頭にあった 冠と， 腕につけていた 腕輪とを 取って，それをわが 主のもとに 携えてきたのです」

その兵士は自分が賞賛と報いを受けることになるだろうと思っていました。しかし、ダビデは彼の出身と身分を聞き後で文責して死刑しました。

主エホバの油を注がれた者であるサウル王を殺した罪の罰を下したのです。

ダビデがこのように処分したのは、価値判断の基準が神あったからです。その兵士は、神の油をそそがれた者を殺す罪がどのように大きなのを知らなかったので破滅したのです。聖徒たちの価値判断の基準は、常に神と神の言葉にあると知らなければなりません。私に何の益があるのか？私が何をほしいのか？と尋ねる前に、神が願うのか？神の言葉に適うのか？と質問する必要があります

第二に、神本主義者は、神が委任された権威を尊重します。

人間が持つのができる知識の中で、神の権威の知識は確かに高貴な知識です。人が神の権威を知って、その権威の下に服従するときは必ず満足して賢い生活を生きます。神の権威は絶対であり、永遠のものです。神の権威に対して**ローマ人への手紙** の陶器師がたとえとして言われました。 **「そこで， あなたは 言うであろう「なぜ 神は，なおも 人を 責められるのか． だれが， 神の 意圖に 逆らい 得ようか 」 ああ 人よ． あなたは， 神に 言い 逆らうとは， いったい， 何者なのか． 造られたものが 造った 者に 向かって， 「なぜ， わたしをこのように 造ったのか 」と 言うことがあろうか． 陶器を 造る 者は， 同じ 土くれから， 一つを 尊い 器に， 他を 卑しい 器に造りあげる 權能がないのであろうか」（ ローマ人への手紙 9：19～21）**私たちは、神から与えられた権威を尊重だけでなく、その権威を神の御旨にふさわしく使用します。その権威を神の御旨に反して使用すれば、神様の審判を免れることができません。

ダビデがゴリアテを殺しので、イスラエルは勝利を得ました。兵士たちが町に戻って帰るときの女性が歌って踊った、サウル王を歓迎し、「サウルが殺した者は、千 千 であり、ダビデが殺した者は万万である」としました。この言葉によって、サウル王はダビデを警戒するようになってついにはダビデを殺そうと何度も試みしたが、失敗しました。ダビデはサウルを避けて逃避の道に立ちました。これらのダビデを殺そうとサウル王は兵士たちを率いて追って行きました。そんな中でも、一度はサウル王がダビデが避難している穴に入ってきました。ダビデと彼の兵士たちは、穴の深いところにいたので、気付かれないしました。ところが、サウル王がその場所で横になってしばらくの間、寝ました。これを見たダビデの兵士が絶好の機会だから、サウル王を殺すと忠告しました。ダビデはそっと近づいてサウル王の上着のすそだけ切らました。そして兵士たちに言った、**「主が あなたをきょう， ほら 穴の 中でわたしの 手に 渡されたのをごらんになりました． 人々はわたしにあなたを 殺すことを 勸めたのですが， わたしは 殺しませんでした． 『わが 君は 主が 油を 注がれた 方であるから， これに 敵して 手をのべることはしない 』とわたしは 言いました． わが 父よ， ごらんなさい． あなたの 上着のすそは， わたしの 手にあります． わたしがあなたの 上着のすそを 切り， しかも， あなたを 殺さなかったことによって， あなたは， わたしの 手に 惡も， とがもないことを 見て 知られるでしょう． あなたはわたしの 命を 取ろうと， ねらっておられますが， わたしはあなたに 対して 罪をおかしたことはないのです」（ サムエル記上 24：8）**しました。

また、サウル王がダビデを見つけて通って荒地でキャンプをしました。ダビデが部下と接近してみると、サウル王とすべてが寝ていました。ダビデの家来がダビデに言った自分が王を殺すのを許可してくれましたが。ダビデはこれを禁じしました

「 ダビデ はまた 言った， 「主は 生きておられる． 主が 彼を 撃たれるであろう。あるいは 彼の 死ぬ 日が 來るであろう． あるいは 戰いに 下って 行って 滅びるであろう． 主が 油を 注がれた 者に 向かって， わたしが 手をのべることを 主は 禁じられる． しかし 今， そのまくらもとにあるやりと 水のびんを 取りなさい． そしてわれわれは 去ろう」（サムエル記上 26：10,11）しました。神様がくださった権威を神の御旨に逆らって使用したサウル王は、神が裁きするが、ダビデ自身が審判の席に立つ行き過ぎをしないようにしていたのです。このように、ダビデは神の権威の知識を持ってその権威を非常に貴重に考えました。

第三に、神本主義者はどのような状況でも、神のみ仕えます。

神を仕える道から抜け出す場合があります。その中の一つは、生活が安定して仕事が栄えるときに高慢の心が生じ、すべてを当然の事として、ここたり、自分の力と知恵でしたものみなし。そして、信仰生活を付随的な事で扱うことになります。あるいは偶像宗教の儀式にあずかるのを普通のことと思っています。

ソロモン王は、国が繁栄して繁栄になると高慢になりました。そして彼は神を離れて偶像崇拝に陥りました。彼はシドン人の女神アシュタロテを追いかけてアンモン人の偶像ミルゴムに仕えました。モアブの偶像ケモシュのために高き所を造りしアンモンの偶像モルロクのために高き所を建てました。これによって、神がソロモンに言われました。

「それゆえ， 主は ソロモン に 言われた， 「これがあなたの 本心であり， わたしが 命じた 契約と 定めとを 守らなかったので， わたしは 必ずあなたから 国を 裂き 離して， それをあなたの 家來に 与える」（列王紀上 11:11）ソロモン死後に果たして国が真っ二つになってしまいました。もう１つは、その逆の場合です。患難が重ねて入れた場合、不安な明日について知ろうとする心理が発動されます。そして鬼にでも聞い知ろうとし、助けを得ようとします。ダビデはどのような状況に直面でも、主なる神だけ仕えました。神に訴えて神に頼りました。彼は多くの歳月をサウル王の追跡を避け逃避生活をしました。隣国に逃れて異邦の王の助けを受けるまでしました。しかし、偶像に仕える国に留まる状況でも自分の安全と生存しようと偶像宗教に仕える行為は決してしません。

第四に、神本主義者はどんな場合でも、神の善を信じます。

ダビデが書いた詩篇を見れば、彼が艱難にあっても、神の善を信頼して、状況が逆転するのを期待したことがわかります。 **「主よ， わたしに 敵する 者のいかに 多いことでしょう． わたしに 逆らって 立つ 者が 多く， 「彼には 神の 助けがない 」と， わたしについて言う 者が 多いのです． （セラ） しかし 主よ， あなたはわたしを 圍む 盾， わが 榮え， わたしの 頭を， もたげてくださるかたです． わたしが 声をあげて 主を 呼ばわると， 主は 聖なる 山からわたしに 答えられる（セラ）」（詩篇 3：1～4）**。「多くの人々が私を指して言う私は神に助けを得ない。」であっても、ダビデは「 **主よ， あなたはわたしを 圍む 盾， わが 榮え， わたしの 頭を， もたげてくださるかたです**」と神との関係を考えました。ダビデは彼の波乱に満ちた生涯を生きながら善い神を固く信じていました。

この時間ダビデの長点を説明しました。それは神本主義に行ったことです。ダビデの長点は、彼の欠点を相殺しても残るものでした。神本主義で一生を飾ったダビデの長点を見て頂きます。神を第一に、神を中心に神本主義で一貫性のある生活をするのを願います。